

旗持稲荷大明神

からすやま いずみちよう
烏山の泉町（中央三丁目）の金刀比羅さんの境内に旗持稲荷大明神の祠が祀られています。このお稲荷さまは、もともと保健所のところにあつた医王寺のお稲荷さまでした。では、このお稲荷さまのお話をしましょう。

からすやま なす どの
むかし、むかし。烏山の那須の殿さまと、茨城の佐竹の殿さまは度々戦をくり返しました。ある時、佐竹の殿さまは、よし、今度こそ那須家を滅ぼしてしまおうと大軍を引き連れて千足峠の上に陣を張り、夜の明けのを待つて、一気に烏山へ攻めかかろうとしました。

あさひ なかがわ き
朝になりました。那珂川のもやも消え、サツと朝日がさすと、烏山一帯が手のとるように見渡せました。ところがどうでしょうか。泉町から鍛冶町まで長いがけの上に、何万何千とも数知れない軍旗が立っており、朝風にヒラヒラひるがえております。これを見た佐竹の殿さまも家来たちも「これはどうじゃ。どうしたことじゃ」とびっくりしてしまいました。こんなにくさん旗を立てるようでは、よほどの大軍がいるにちがいない。これはとてもかなわないぞと、コソコソと軍をまとめて退いてしまいました。なんとこの旗は医王寺のお稲荷さまが、烏山をお守りするために現われた幻の旗だったので。「有難いお稲荷さまだ、烏山の守り神だ。」というので、「旗持稲荷大明神」と申して町の人々は後々までお祭りをしました。明治の初めこのお稲荷さまは医王寺から今の

こんびら けいだい うつ
金刀比羅さまの境内にお移しされたのだということです。